

愛されている幸福と愛するものがある幸福

人も動物も愛を求めます。

それは本能でもあり、種の保存からも当然のことですが、私たち人間にとっては単なる性的なものではなく心の健康上、必要なものでもあります。

日々の暮らしの中で、愛情は時に私たちに生きる力を与えてくれますし目の前の難題に立ち向かう勇気にもなります。愛情は、恋人同士の間だけでなく親子間でも交わされますし、師弟の間でも存在します。

人から愛されていると感じた時私たちはこの上ない幸福感に満たされます。

幸せになりたいと願う人にとって、誰かに愛されるということは、必要不可欠な要素なのです。

愛されたいと願ったり、愛されていると喜んだりすることには敏感に気づきやすいのですが、実は愛するものがあるということも幸せのひとつなのです。

私たちが誰かや何かを愛した時、私たちの心の中に優しい気持ちが育つのが感じることができます。

心の底から愛するものを見つけられた人は、それだけでもとても幸せなのです。

多様な仕事や暮らしの中で、ゆっくりと愛情に浸ってはいられない人もいます。中には愛されていることに気がつかないこともあります。先進国と呼ばれる国の人たちはその忙しさからついつい感度が鈍り、愛情に対して希薄になりがちです。

その先進国で暮らしていても仕事もせず、多くの言葉も持たず毎日を過ごしている犬たちにとっては、愛情はなにより大事なことで感覚を研ぎ澄ませて自分への愛情を感じ取ろうとします。

もちろん、愛情を注ぐことにも全力で向かいます。

もともと犬は群れ(家族)を作る動物で、その根底には群れ(家族)愛が根付いています。

犬にとって、愛情とは生きるための食物よりも大切なものなのです。

犬は仮に餓死寸前だったとしても、食べて命をつなぐこと以上に群れ内の愛情を大切にす動物なのです。

長年、犬と暮らしていると『エッ』と驚くような犬からの愛情を感じる時があります。

愛おしくもあり、可愛くもあり、感激してしまうのですが、実は私たちが気づくずっと前からいわば子犬で我が家にやってきた時から犬はずっと私たちのことを懸命に愛し続けているのです。

言うことを効かないとか、迷惑な行為が止まらなると愛犬に対してたくさんの不満を言う人もいます。なんとかして欲しいと助けを求める人もいます。

そんな時、悩みは悩み、困り事は困り事としても

もう一度愛犬の目をじっと見つめてみてください。目の奥に、あなたを愛してやまない優しさとあなたに愛されたいと願う強い力を感じるでしょう。

そうすれば、愛されている自覚と共に

愛するものがすぐそばにいる幸せを感じることができるのです。



2021年1月

NPO 法人ワンワンパーティークラブ 三浦 健太 著